

2010 年春季のサワラの漁況予報

2009 年 11 月現在の集計では、瀬戸内海系群サワラの 2008 年発生量は、最近の 5 カ年で最も多いと推定されています。

大型種苗の放流状況

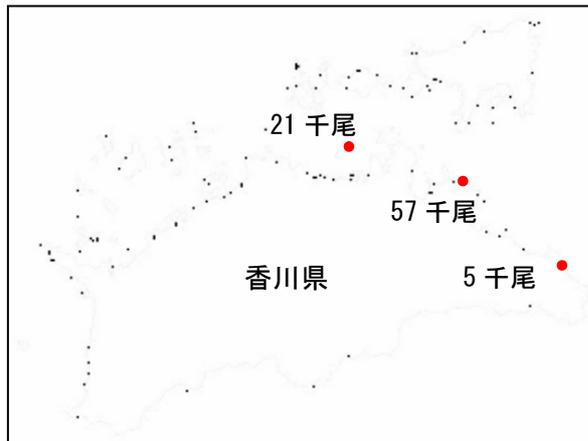


図 1 放流場所

2009 年は、中間育成した全長約 100mm の大型種苗を小田中間育成場から約 57 千尾、女木島漁協から約 21 千尾、引田漁協から約 5 千尾を放流しました【図 1】。

瀬戸内海全体では、本県を含め、大阪府・兵庫県・岡山県・広島県・愛媛県・大分県及び水産総合研究センター屋島栽培漁業センターから、全長約 100mm の大型種苗が合わせて約 230 千尾、瀬戸内海区水産研究所栽培技術研究室から全長約 58mm の種苗を 41 千尾、全てに標識をつけて放流しました。

標本調査の放流魚の混入率

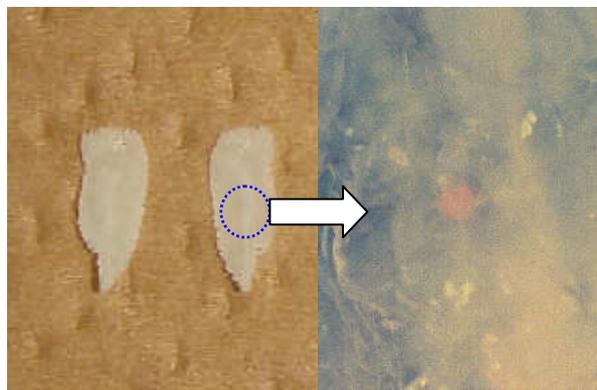


図 2 耳石標識

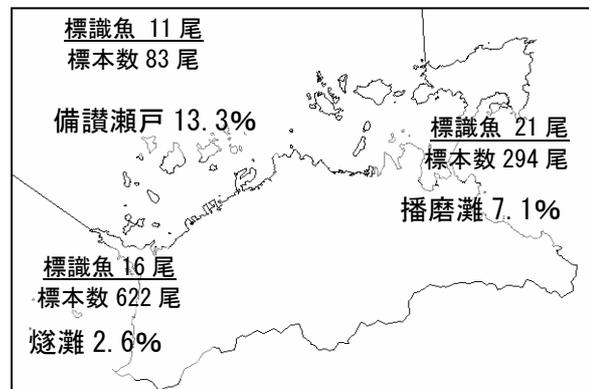


図 3 灘別の混入率

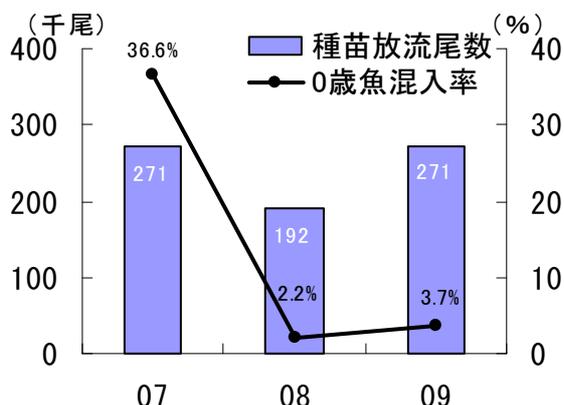


図 4 放流尾数と 0 歳魚の混入率

2009 年は 999 尾の標本の耳石標識を調べました【図 2】。

そのうち、48 尾に標識が見つかり、放流魚の混入率（標識魚/標本魚）は 4.8% となりました【図 3】。

年齢別の混入率は、0 歳魚で 3.7%（標識魚 23 尾/標本数 621 尾）、1 歳魚で 2.5%（7/282）、2 歳魚で 24.4%（10/41）、3 歳魚で 16.7%（8/48）、4 歳魚で 0%（0/7）となりました。

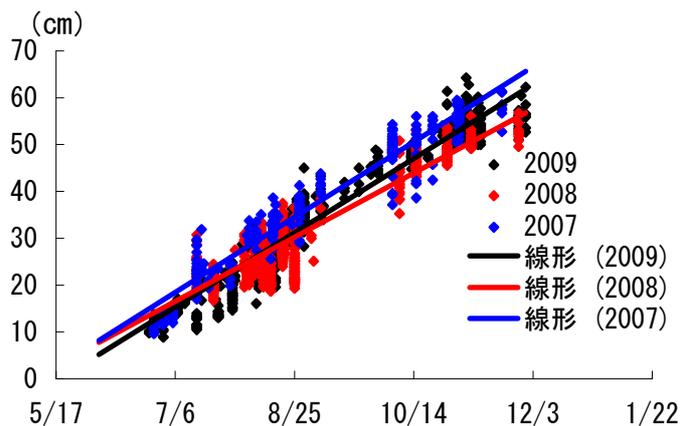


図5 年別の尾叉長の推移

0歳魚は、瀬戸内海全体に約231千尾の種苗を放流し、その混入率が3.7%と低いことから、前年に引き続き2009年度の天然発生が多いことがうかがえます。また、2008年の発生群の1歳魚の混入率も2.5%と低く、生残りも良いことがうかがえます【図4】。

0歳魚標本の尾叉長の推移を比較したところ、2009年は、2008年より大きく2007年より小さくなりました【図5】。

資源量が多いと、魚体の小型化が見られるので、この結果からも2009年も発生が良いことがうかがえます

秋漁の漁獲状況

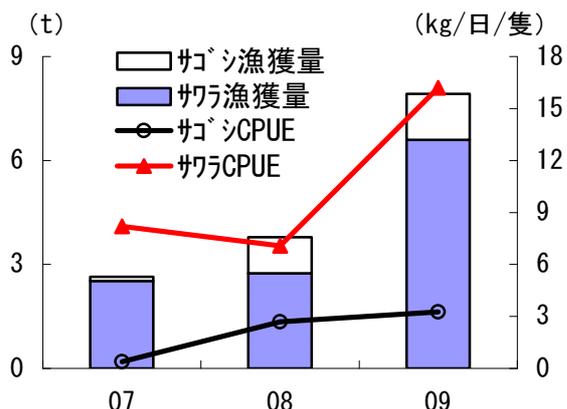


図6 燧灘さわら流しさし網漁獲量

TAC集計によれば、10月から11月の間燧灘で操業する伊吹漁協のさわら流しさし網の漁獲は、さわらで対前年比240%、サゴシは対前年比128%でした。

CPUE（単位努力当り漁獲量）は、さわらで対前年比229%、サゴシは対前年比122%でした【図6】。

漁獲成績報告によると、漁獲されたさわらの99.9%が、2kg以上から4kg未満で、1歳から2歳であると思われます【表1】。

表1 年齢別魚体重（10月から11月の標本調査より）

	0歳	1歳	2歳
体重 (kg)	1.3 (1.0 - 1.8)	2.7 (1.2 - 3.8)	3.1 (2.8 - 3.3)
調査標本数 (尾)	239	74	4

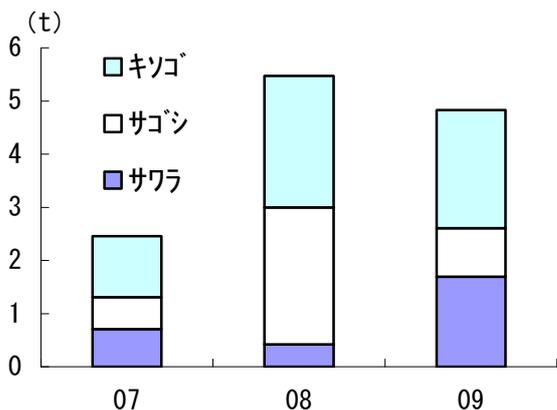


図7 播磨灘定置網漁獲量

播磨灘で操業する大型定置網の2経営体の8月～12月の銘柄別の漁獲量は、キソゴ（約800g以下の0歳魚）は対前年比90%、サゴシは対前年比35%、さわらは対前年比404%でした【図7】。

秋漁の状況からは、2009年発生群の漁獲尾数が、2007年より多く、2008年より少ない。2008年の発生群の生残は良いと思われます。

さわら流しさし網試験操業調査結果

表2 試験操業結果

年	2007年		2008年		2009年	
	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数
操業日	10/5	47	10/8	26	10/13	20
	10/15	14	10/15	49	10/20	3
	10/22	11	10/28	32	10/28	13
計	72尾		107尾		36尾	
放流魚	23尾		1尾		0尾	
混入率	32%		1%		0%	
CPUE	12.0尾/隻		17.8尾/隻		6.0尾/隻	
	0.8尾/反		1.2尾/反		0.4尾/反	

播磨灘南西部海域で10月にさわら流しさし網の試験操業(3回延べ6隻)を実施したところ、0歳のサゴシを36尾漁獲しました。漁獲したサゴシから標識魚は見つかりませんでした。

CPUE(単位努力当り漁獲量)は2007・2008年より低い値となり他の調査結果のように、良好な発生を示す値とはなりません。

瀬戸内海のサゴシの漁獲状況

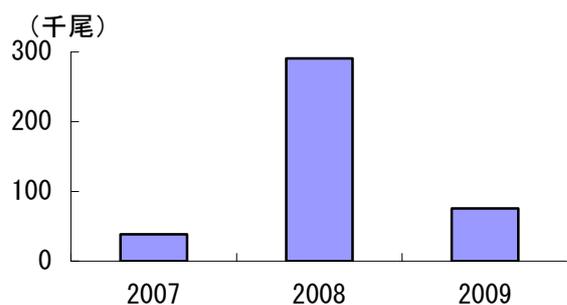


図8 8月から12月のサゴシの漁獲尾

漁獲成績報告の集計によると、2009年の瀬戸内海各海域の8月から12月のサゴシ漁獲尾数の合計は、2007年の197%で、最近の5ヵ年で最も発生が良かった2008年の26%でした。

2010年春季の漁況予報

調査結果及び漁獲状況から、2008年より少なく、2007年より多いと思われる。また、2008年の生残りは、良いと思われる。

○3才魚 (2007年生まれのサワラ)

2009年並みと予想されます。

理由：3才魚は、漁獲対象の主群ではないが、2008年と2009年の2才魚の資源量が同程度と想定されるため。

○2 才魚（2008 年生まれのサワラ）

2009 年を上回ると予想されます。

理由:1 才魚の資源量が 2008 年より 2009 年の方が多いと想定されるため。

○1 才魚（2009 年生まれのサワラ）

2009 年を下回ると予想されます。

理由:0 才魚の資源量が 2008 年より 2009 年の方が少ないと想定されるため。

2010 年は、総量として 2009 年を上回る漁獲が可能であると予想されま
す。

しかしながら、瀬戸内海全体の現状の漁獲圧で漁獲を続けると、瀬戸
内海系群の資源量は増加しないと予想されています。

発生が良いと想定されている 2008 年発生群が、2010 年に、親魚として
来遊してくるので、2009 年より発生が増加することが予想されます。

さわら流しさし網の漁業経営は厳しい状況ですが、可能な限り、漁業
経営の効率化をはかり、資源保護に努めてください。